

第1節 豊かなこころを育み文化を創造するまち



小学校の授業

1 人間尊重の推進

一人一人が人間尊重の原点に立ち、お互いの人権を大切に、同和問題をはじめ、あらゆる人権問題を解決し、あたたかい人間愛に満ちた共生社会の実現が望まれている。

人間尊重の精神や平和意識の高揚を図るため啓発・学習活動を推進するとともに、男女共生社会の形成に努める。

2 生涯学習社会の拡充

余暇や自由時間の増大、高齢化の進展など社会の成熟化にともなって、多くの住民が学習に生きがいや楽しみを見出したいと願っている。そのため、生涯のいつでも、どこでも自由に学習の場を選択して学べ、その成果が生かされる生涯学習社会の確立、拡充を図るとともに、住民による芸術文化の創造活動の振興と、文化施設の整備・充実に努める。

また、健康管理や生きがいづくり、仲間づくりを目的としたスポーツ・レクリエーション活動に対する要求や期待が高まっているため、生涯スポーツ活動を推進するとともに、気軽に利用できる施設の整備・充実に指導者の育成を進める。

3 学校教育の充実

学校園は、人間形成の基礎を築く場であるとともに、生涯学習の基礎を培う場でもある。

こころ豊かな人間性を育むため、一人一人の個性や能力を伸ばし、社会のさまざまな変化に生涯にわたり主体的に対応して生きていく力を育成するとともに、体験活動を通してこころの教育の充実を図る。

また、各学校園が、特色ある教育を展開するとともに、家庭や地域社会との連携・協力関係をいっそう強化し、地域に開かれた学校運営を推進する。

4 歴史的資産の保全と活用

大中遺跡をはじめ、干ばつの被害から地域を救った今里傳兵衛や、幕末期に日米外交界で活躍し、後に新聞の父と呼ばれたジョセフ彦の生誕地であるなど、歴史的文化的資産に恵まれている。こうした歴史的資産の保全と活用を図るため、文化財の調査・収集・展示などを進めるとともに、大中遺跡周辺の整備や県立考古博物館の誘致に努める。



中学校の授業



七宝焼サークル(中央公民館)



ジョセフ彦の展示(郷土資料館)

